

# 令和元年度芹沢光治良文学講演会

「芹沢光治良と川端康成 それぞれの文学について」

by 沼津市立図書館4階視聴覚ホール

2019年11月2日(土)

## 1. 勝呂 奏(すぐろ すすむ)教授ご紹介

- ・1955年、静岡県生まれ。
- ・主に日本近代文学を研究、桜美林大学リベラルアーツ学群教授
- ・平成21年(2009年)より沼津市芹沢光治良記念館助言者を務める  
平成20年度(2008年)日本キリスト教文学会賞を受賞。  
平成25年度(2013年)静岡県文化奨励賞を受賞。
- ・主な著書に『評伝芹沢光治良—同伴する作家—』(2008年 翰林書房)、  
『評伝小川国夫—生きられる文士—』(2012年 勉誠出版)などがある。

出典: インターネット



## 2. 講演会参加の目的【折乃笠】

### 1) 企画展「光治良と川端康成展」の更なる深堀

2019年7月20日(土)6年ぶりに芹沢光治良記念館を訪ねた。

企画展「光治良と川端康成展」を拝覧。記念館主事の剣持直樹様にたいへん丁寧に企画展を説明いただいた。企画展は豊富で工夫を凝らした展示物があり、更に説明から十分に内容を理解することができた。

今般、講演会で更なる深堀を実施する。

### 2) 光治良先生と康成先生に対する折乃笠印象の検証

以下は沼津朝日新聞に投稿したものの一文である。

・光治良先生の印象は、芯はお強いがお優しい。冷静でおとなしいが、曲がったことが大嫌い、だれにでもはっきりものを申す。縁の下の力持ちで大きな仕事をするが目立たない。家族や知人をとても大切にする。一言で言うと利他の人である。

・康成先生の印象は、気が小さいところがあって我儘。人を選んではっきりものを申す。目立つことが好きで全面的に自分を主張する。女性を溺愛するが、家庭は持たない。一言で言うとの人である。

両先生に対する折乃笠の印象が正しい方向にあるのか検証する。

### 3. 講演会内容【勝呂教授】

二人の比較論は2001年羽鳥徹哉が論文にしている。資料は出揃っている。  
それをベースに個人個人でいろいろな見解ができる。

- ◆作家面&人間面: 芹沢の方が三歳年上だが川端に対し至って丁寧な接している
  - ・川端 作家としてもプライド大
  - ・芹沢 人間としてだれにでも丁寧に接している
- ◆物書きとしてのイメージ
  - ・川端 文士 食べる食えないではなくとにかく書く
  - ・芹沢 作家 人間として物事を追求して行く
- ◆孤児で一致: 孤児の背景、内容が異なり、よって文学も異なってくる
  - ・川端 両親、祖父母、兄弟が段々に亡くなっていき、天涯孤独となる
  - ・芹沢 両親は天理教に帰依し別離、優しい祖父母や叔父叔母に育てられる
- ◆影響した宗教
  - ・川端 仏教
  - ・芹沢 天理教
- ◆文学の特徴①: 目に表われている
  - ・川端 ギョロ目
  - ・芹沢 おだやかな目
- ◆文学の特徴②
  - ・川端 仏教的無常が出てくる 客観的にまとめようとする
  - ・芹沢 読者を支える 人間的な眼差しを送る
- ◆文学の特徴③
  - ・川端 作品を完成させることに重きを置く
  - ・芹沢 作品は読者を視野に入れて描く
- ◆文学の特徴④
  - ・川端 自分が良いと思って書いている わかるわからないは読者による
  - ・芹沢 読者にわかる様に書く
- ◆作家までの道: 川端はしばらくの間、非情にも芹沢を作家として認めず
  - ・川端 学生時代から作家志望で苦勞してきた 作家としての自負がある
  - ・芹沢 しばらく役人、34歳で懸賞小説に一発で一等当選
- ◆二人の交流
  - ・晩年、ペンクラブの川端会長、芹沢副会長で人間的な付き合いが始まる、良きパートナーであった
  - ・芹沢は小説“人間の運命”が半分しか書けていなかったが、川端から強引に会長職を譲られた。

人間同士の付き合いはあるが、文学者同士としての作品の交流は無く、交流があれば刺激しあってお互い素晴らしいものになるのではないか。

#### 4. Q&A

Q1 山梨大月の折笠と申します。

芹沢先生の御性格はたいへん良くわかるのですが、川端先生の御性格はどうも悪役に取ってしまうのですが、勝呂先生はどう思われますか？

A1 …… 会ったことがないので…… わかりません。

Q2 お二人の文学を簡潔に言うと？

A2 川端は夜の文学。芹沢は昼の文学。

#### 5. まとめ【折乃笠】

今回の講演会の参加目的であった下記2点に対し

1) 企画展「光治良と川端康成展」の更なる深堀

2) 光治良先生と康成先生に対する折笠印象の検証

共に十分満足できるレベルで実施できた。両先生の間人面、作家面、文学面の特徴、違いがより明確になった。そして、光治良先生の素晴らしさが浮き彫りにされた。

今後、芹沢文学の要 人間的に生きること を更に自分なりに追求して行く。

#### 【講演会資料】

■ 沼津市教育委員会主催 令和元年度 芹沢光治良文学講演会 ■

## 芹沢光治良と川端康成

—それぞれの文学について



■ 日 時 令和元年 11 月 2 日(土) 13:30 ~ (開場 13:00、終了予定 16:00)

■ 会 場 沼津市立図書館 4 階視聴覚ホール(沼津市三枚橋町 9-1)

■ 定 員 180 名(入場無料、定員になり次第メッチ)

■ 申込方法 9 月 10 日(火) 9:00 より電話または電子メールで

■ 申 込 先 沼津市芹沢光治良記念館(〒410-0823 沼津市我入道墓ヶ原 517-1)

■ 電 話 055-932-0255 ■ 電子メール kojiro@city.numazu.lg.jp

■ 受付時間 9:00~17:00(平日の月曜日、9 月 17 日(火)、24 日(火)、10 月 15 日(火)除く)

■ 講 師 すぐろ すずむ 勝呂 奏 さん (桜美林大学リベラルアーツ学群 教授)



【経 歴】  
1955 年、静岡県生まれ。  
上智大学大学院文学研究科博士前期課程修了。  
主に日本文学を研究、桜美林大学リベラルアーツ学群教授。  
平成 21(2009)年より沼津市芹沢光治良記念館助言者を務める。  
平成 20(2008)年度 日本キリスト教文学会賞を受賞。  
平成 25(2013)年度 静岡県文化奨励賞を受賞。

【主な著書】  
『評伝芹沢光治良—同伴する作家—』(2008 年/翰林書房)  
『評伝小川国夫—生きられる文士—』(2012 年/勉誠出版)



沼津市芹沢光治良記念館にて企画展「光治良と川端康成展」(第 1 回)開催中(11 月 30 日(土)まで)